

文部科学省

対策分類	予算事項（経費）名	経費の概要	
2 試験研究及び技術開発の推進	基礎研究	内分泌かく乱物質研究領域	科学技術振興事業団「戦略的基礎研究推進事業」のうち、内分泌かく乱物質問題に関する本質的な理解、解決を目指した基礎的な研究について、公募により研究課題を選定して実施し、知見の集積を行う。
	作用の解明 分解能力の高い微生物の探索・分解メカニズムの解明	環境分子の生体変換に関する研究	内分泌かく乱物質に関する大学等における研究者の自発的発想に基づく研究
	技術開発 廃棄物・バイオマスの処理・再資源化における安全性・影響評価研究	一般・産業廃棄物・バイオマスの複合処理・再資源化プロジェクト	理化学研究所「環境分子科学研究」のうち、内分泌かく乱物質と疑われているPCB、ダイオキシン等を分解する能力の高い微生物の探索、分解のメカニズムの解明等の研究を行う。
	情報提供・普及啓発 学校関係者への提供	内分泌かく乱物質に関する情報の収集・提供事業	廃棄物・バイオマスの処理・再資源化を行う研究開発プロジェクトの一環として、廃棄物・バイオマスの低温ガス化処理等に伴う副生成物（灰、排ガス、浸出水等）の試験・分析等の研究を行い、バイオ技術の活用により、廃棄物処理における有害化学物質等に関する簡便な安全性評価、環境リスク管理の技術開発を目指す。
3 環境リスク評価、環境リスク管理および情報提供の推進	情報提供・普及啓発 学校関係者への提供	内分泌かく乱物質に関する情報の収集・提供事業	学校関係者に対し「内分泌かく乱物質」に関する情報についてインターネットを活用して提供する。

経済産業省

対策分類	予算事項（経費）名	経費の概要	
2 試験研究及び技術開発の推進	スクリーニング試験の開発・検証 構造活性相関	環境ホルモン効果に関する評価・試験法の開発	化学物質の構造から内分泌かく乱作用の予測を迅速に行う「構造活性相関システム」の開発を行う。 優先的に取り組むべき化学物質についてスクリーニング試験等を実施し、有害性を検証するとともに、国際的な取組を進めるためにOECDのスクリーニング試験法開発実証プロジェクトに参加する。
	スクリーニング試験の開発・検証 受容体作用機構レベル	内分泌かく乱作用に関する新試験法の研究開発	甲状腺に作用する化学物質等、従来の方法で検出が困難であった物質を標的とした、簡易かつ安価な <i>in vitro</i> （試験管レベル）試験法の開発を行う。 生殖・発生毒性等について、より高感度での毒性の検出が可能な <i>in vivo</i> （生体内レベル）試験法の開発を行う。
	スクリーニング試験の開発・検証 細胞レベル	内分泌かく乱作用に関する新試験法の研究開発（再掲）	甲状腺に作用する化学物質等、従来の方法で検出が困難であった物質を標的とした、簡易かつ安価な <i>in vitro</i> （試験管レベル）試験法の開発を行う。 生殖・発生毒性等について、より高感度での毒性の検出が可能な <i>in vivo</i> （生体内レベル）試験法の開発を行う。
	スクリーニング試験の開発・検証 動物実験 （人への影響）	環境ホルモン効果に関する評価・試験法の開発（再掲）	化学物質の構造から内分泌かく乱作用の予測を迅速に行う「構造活性相関システム」の開発を行う。 優先的に取り組むべき化学物質についてスクリーニング試験等を実施し、有害性を検証するとともに、国際的な取組を進めるためにOECDのスクリーニング試験法開発実証プロジェクトに参加する。
	内分泌かく乱作用に関する新試験法の研究開発	甲状腺に作用する化学物質等、従来の方法で検出が困難であった物質を標的とした、簡易かつ安価な <i>in vitro</i> （試験管レベル）試験法の開発を行う。 生殖・発生毒性等について、より高感度での毒性の検出が可能な <i>in vivo</i> （生体内レベル）試験法の開発を行う。	

	技術開発 分析技術の開発	生物の持つ機能を利用し た環境中化学物質の高感 度検出・計測技術の開発	生物の持つ高感度な認識応答機能を利用することによ り、環境中の内分泌かく乱物質を高感度・広域的・高速・ 安価に測定できる技術等の開発を行う。
	暴露評価手法の開発	生物の持つ機能を利用し た環境中化学物質の高感 度検出・計測技術の開発	生物の持つ高感度な認識応答機能を利用することによ り、環境中の内分泌かく乱物質を高感度・広域的・高速・ 安価に測定できる技術等の開発を行う。
3 環境リスク評価、 環境リスク管理および 情報提供の推進	リスク評価	環境ホルモン効果に関す る評価・試験法の開発 (再掲)	化学物質の構造から内分泌かく乱作用の予測を迅速に行 う「構造活性相関システム」の開発を行う。 優先的に取り組むべき化学物質についてスクリーニング 試験等を実施し、有害性を検証するとともに、国際的な取 組を進めるためにOECDのスクリーニング試験法開発実 証プロジェクトに参加する。
	規制・試験法の動向	化学物質評価・管理に係 る国内外調査	文献調査及びハザードデータの収集並びに欧米等各国の 試験法・規制動向調査等により、内分泌かく乱物質に関す る情報を広く収集・分析し、科学的知見の充実を図る。
4 国際的なネット ワーク強化のための努 力	国際協力 スクリーニング試験の 開発・検証	環境ホルモン効果に関す る評価・試験法の開発	化学物質の構造から内分泌かく乱作用の予測を迅速に行 う「構造活性相関システム」の開発を行う。 優先的に取り組むべき化学物質についてスクリーニング 試験等を実施し、有害性を検証するとともに、国際的な取 組を進めるためにOECDのスクリーニング試験法開発実 証プロジェクトに参加する。

国土交通省

対策分類	予算事項（経費）名	経費の概要	
1 環境中での検出状況、野生生物等への影響にかかる実態調査の推進	環境汚染把握 下水処理	下水道における微量化学物質の評価に関する調査	下水道に流入する可能性のある微量化学物質のうちエストロゲンやノニルフェノール類を中心に、下水処理での挙動の解明を行うとともに、エストロゲンについては検出方法の簡易化・迅速化を提案する。
	環境汚染把握 下水処理	下水道における化学物質リスクマネジメントに関する調査研究（ダイオキシン類・POPs関連予算にも計上）	下水道における化学物質の実態調査を行い、下水道において把握すべき化学物質の選定及び発生量の算定方法の確立を図るとともに、化学物質の適正な管理を行うことで公共水域をはじめとする一般環境に対するリスク管理の適正化を図るための調査を実施する。さらに、水を経路とした化学物質対策の水系リスクマネジメント手法の検討を行う。
	環境汚染把握 下水処理	下水道における化学物質の流入、流出実態の把握に関する調査検討	過去に実施した実態調査、PRTR制度の運用等により明らかになった下水処理場へ流入する化学物質について、下水処理場内における挙動を調査し、測定方法など下水処理場への流入、流出実態を把握する効率的な手法を確立する。
	環境汚染把握 海洋	海洋汚染の調査	海洋汚染の防止及び海洋環境保全のため、日本周辺海域、主要湾及び廃棄物排出海域において、油分、PCB、重金属、有機スズ化合物等の調査を実施する。
環境汚染把握 河川	環境汚染把握 河川	河川における微量化学物質に関する調査（河川環境整備事業調査費）※ダイオキシン類含む	社会活動の結果河川へ流入する排水などの中には、人体や生態系等へ極微量で影響を与える、あるいはその疑いのある物質が含まれていることから、直轄河川におけるこれら微量化学物質の調査を行い、リスクの予防・低減対策を講じる際の基礎データを蓄積する。

2 試験研究及び技術 開発の推進	作用の解明 排出・汚染メカニズム の解明	河川等環境中における化 学物質リスクの評価に関 する研究	P R T R（化学物質排出把握管理促進法）の対象化学物 質について、河川等の環境中の存在量や挙動を明らかにす るとともに、その結果を解析して、ヒトの健康や生態系の 健全性に影響を与える疑いのある化学物質を特定し、他の 研究機関と連携し、それらの影響を評価する。
	技術開発 無害化・不活化・除去 技術の開発（下水処 理）	微生物群制御による内分 泌かく乱物質の分解手法 に関する研究	内分泌かく乱物質を分解する能力を有する微生物群が下 水処理場の活性汚泥などの複合微生物系内でその能力を発 揮する条件を明らかにし、下水処理場における内分泌かく 乱物質によるリスクの低減が可能な水準を明らかにする。

環境省

対策分類	予算事項（経費）名	経費の概要	
1 環境中での検出状況、野生生物等への影響にかかる実態調査の推進	環境汚染の把握	内分泌攪乱化学物質による健康影響等調査	内分泌攪乱化学物質による環境汚染状況実態調査、人や生態系への影響調査等を行う。
	生態系への影響	内分泌攪乱化学物質による健康影響等調査	内分泌攪乱化学物質による環境汚染状況実態調査、人や生態系への影響調査等を行う。
		内分泌攪乱化学物質実態解明推進事業	我が国における生態影響の実態を地域を限定し、詳細な調査を実施する。
	暴露量調査（室内空気・食事）	内分泌攪乱化学物質のリスク評価・試験法開発及び国際共同研究等推進経費	内分泌攪乱作用が疑われる化学物質について、ヒトに対するリスク評価に資する暴露評価の一環として、食事経路及び室内空気経路等からヒトへの暴露量を求める。
2 試験研究及び技術開発の推進	スクリーニング試験の開発・検証 遺伝子レベル	内分泌攪乱化学物質実態解明推進事業	遺伝子技術を用いて人や生態系への有害性評価手法の確立を行う。
	スクリーニング試験の開発・検証 動物実験 （人への影響）	内分泌攪乱作用を有する可能性のある農薬の生殖毒性調査	SPEED'98記載の農薬について、内分泌攪乱作用の有無について検討。
		農薬内分泌攪乱作用検証調査	SPEED'98記載以外の新たに作用の疑われている農薬について、内分泌攪乱作用の有無について検討。

	スクリーニング試験の開発・検証 動物実験 (生態系への影響)	内分泌攪乱化学物質のリスク評価・試験法開発及び国際共同研究等推進経費	優先的に取り組むべき化学物質についてスクリーニング試験等を実施し、有害性を検証する。 <経済産業省と連携> また、生態影響に係るスクリーニング試験法の開発を行う。
	作用の解明 排出・汚染メカニズムの解明	内分泌攪乱化学物質のリスク評価・試験法開発及び国際共同研究等推進経費	内分泌攪乱作用が認められ、かつ環境中で検出された化学物質について、汚染源における分解挙動等の解明を目的とした詳細な調査を行う。
3 環境リスク評価、環境リスク管理および情報提供の推進	リスク評価	内分泌攪乱化学物質のリスク評価・試験法開発及び国際共同研究等推進経費(再掲)	優先的に取り組むべき化学物質についてスクリーニング試験等を実施し、有害性を検証する。 <経済産業省と連携> また、生体影響に係るスクリーニング試験法の開発を行う。
	情報提供・普及啓発 生態影響	内分泌攪乱化学物質実態解明推進事業	世界中に存在する膨大な生態影響に係る科学的知見や調査データを整理し、そのデータや情報を共有・相互利用できるシステムの構築。
	その他 一般への情報提供	「環境ホルモン戦略SPEED' 98」改訂作業	1998年5月に作成した「環境ホルモン戦略-SPEED' 98」(2000年11月改訂)の改訂作業に着手する。
4 国際的なネットワーク強化のための努力	国際協力 国際共同研究	内分泌攪乱化学物質のリスク評価・試験法開発及び国際共同研究等推進経費	英国、米国、韓国との共同研究

厚生労働省

対策分類	予算事項（経費）名	経費の概要	
1 環境中での検出状況、野生生物等への影響にかかる実態調査の推進	人暴露の把握	厚生労働科学研究費補助金（食品・化学物質安全総合研究事業）	内分泌かく乱作用が疑われる化学物質について、人への暴露量を求める。
	暴露量調査	厚生労働科学研究費補助金（食品・化学物質安全総合研究事業）	内分泌かく乱作用が疑われる化学物質について、人への暴露量を求める。
	疫学研究・生態暴露量調査	厚生労働科学研究費補助金（食品・化学物質安全総合研究事業）	内分泌かく乱化学物質と健康影響に関する疫学研究の推進
2 試験研究及び技術開発の推進	スクリーニング試験の開発・検証 ドッキングモデル構造 活性相関	厚生労働科学研究費補助金（食品・化学物質安全総合研究事業）	内分泌かく乱化学物質のスクリーニング系整備・実施。国際的な取組を進めるためにOECDのスクリーニング試験法開発実証プロジェクトに参加する。
	スクリーニング試験の開発・検証 遺伝子レベル	厚生労働科学研究費補助金（食品・化学物質安全総合研究事業）（再掲）	内分泌かく乱化学物質のスクリーニング系整備・実施。国際的な取組を進めるためにOECDのスクリーニング試験法開発実証プロジェクトに参加する。
	スクリーニング試験の開発・検証 受容体作用機構レベル	厚生労働科学研究費補助金（食品・化学物質安全総合研究事業）（再掲）	内分泌かく乱化学物質のスクリーニング系整備・実施。国際的な取組を進めるためにOECDのスクリーニング試験法開発実証プロジェクトに参加する。

	スクリーニング試験の 開発・検証 細胞レベル	厚生労働科学研究費補助 金（食品・化学物質安全 総合研究事業）（再掲）	内分泌かく乱化学物質のスクリーニング系整備・実施。 国際的な取組を進めるためにOECDのスクリーニング試 験法開発実証プロジェクトに参加する。
	スクリーニング試験の 開発・検証 動物実験 （人への影響）	厚生労働科学研究費補助 金（食品・化学物質安全 総合研究事業）（再掲）	内分泌かく乱化学物質のスクリーニング系整備・実施。 国際的な取組を進めるためにOECDのスクリーニング試 験法開発実証プロジェクトに参加する。
	スクリーニング試験の 開発・検証 動物実験 （人への影響）	内分泌かく乱化学物質ス クリーニング試験実施事 業	培養細胞を利用したアッセイ系を用いて多数の化学物質 について初期評価を行う。＜経済産業省と連携＞ OECDと連携した新規スクリーニング法の開発・検証 し、これを用いて内分泌かく乱化学物質と指摘されている 食品容器包装中や洗浄剤等に含まれる化学物質を中心に試 験を行う。
	作用の解明 労働環境中物質による 健康影響の研究	職場有害因子の生体影響 機序に関する基盤的研究 経費	労働環境中の内分泌かく乱作用が疑われる化学物質に関 する健康影響について研究を行う。
	作用の解明 作用メカニズムの解明	厚生労働科学研究費補助 金（食品・化学物質安全 総合研究事業）	内分泌かく乱化学物質の人の健康への影響の作用メカニ ズムに関する調査研究を行う。
	技術開発 分析技術の開発	厚生労働科学研究費補助 金（食品・化学物質安全 総合研究事業）	生体試料について、信頼性の高い採取・分析法を整備す る。
3 環境リスク評価、 環境リスク管理および 情報提供の推進	リスク評価	厚生労働科学研究費補助 金（食品・化学物質安全 総合研究事業）（再掲）	内分泌かく乱化学物質のスクリーニング系整備・実施。 国際的な取組を進めるためにOECDのスクリーニング試 験法開発実証プロジェクトに参加する。

	情報提供・普及啓発 人影響	内分泌かく乱化学物質健康確保対策基盤整備費	平成11年度より、各国の研究成果や対策状況、使用実態の把握等を行うための情報交換を実施するとともに、これらのデータベースを整備する。
4 国際的なネットワーク強化のための努力	国際協力 スクリーニング試験の 開発・検証	厚生労働科学研究費補助金（食品・化学物質安全総合研究事業）	内分泌かく乱化学物質のスクリーニング系整備・実施。国際的な取組を進めるためにOECDのスクリーニング試験法開発実証プロジェクトに参加する。
	国際協力 スクリーニング試験の 開発・検証	内分泌かく乱化学物質スクリーニング試験実施事業	培養細胞を利用したアッセイ系を用いて多数の化学物質について初期評価を行う。＜経済産業省と連携＞ OECDと連携した新規スクリーニング法の開発・検証し、これを用いて内分泌かく乱化学物質と指摘されている食品容器包装中や洗剤等に含まれる化学物質を中心に試験を行う。

農林水産省

対策分類		予算事項（経費）名	経費の概要
1 環境中での検出状況、野生生物等への影響にかかる実態調査の推進	生態系への影響 魚介類	漁場環境の化学物質リスク対策推進事業	内分泌かく乱物質による魚介類への影響実態調査を実施する。
2 試験研究及び技術開発の推進	スクリーニング試験の開発・検証 細胞レベル (農薬)	農薬内分泌かく乱影響判別技術	農薬が人や魚類に対して内分泌かく乱作用を引き起こす可能性を持つかどうかを迅速かつ高精度に判別する技術等を確立する。
	スクリーニング試験の開発・検証 動物実験 (人への影響)	農薬内分泌かく乱影響判別技術	農薬が人や魚類に対して内分泌かく乱作用を引き起こす可能性を持つかどうかを迅速かつ高精度に判別する技術等を確立する。
	スクリーニング試験の開発・検証 動物実験 (生態系への影響) (農薬)	農薬内分泌かく乱影響判別技術	農薬が人や魚類に対して内分泌かく乱作用を引き起こす可能性を持つかどうかを迅速かつ高精度に判別する技術等を確立する。
	スクリーニング試験の開発・検証 動物実験 (生態系への影響) (海産生物)	漁場環境の化学物質リスク対策推進事業	内分泌かく乱物質による海産生物への再生産影響試験法の開発を行う。
	作用の解明 農林水産業における影響実態・環境中動態・作用機構の解明	農林水産生態系における有害化学物質の総合管理技術の開発	農林水産生態系における内分泌かく乱物質等について、その動態の把握、生物、生態系への影響評価を行うとともに、分解・無毒化技術の実証研究等を通じたリスク低減技術を開発する。
	技術開発 無害化・不活化・除去技術の開発 (農林水産業)	農林水産生態系における有害化学物質の総合管理技術の開発	農林水産生態系における内分泌かく乱物質等について、その動態の把握、生物、生態系への影響評価を行うとともに、分解・無毒化技術の実証研究等を通じたリスク低減技術を開発する。